©ゐさわさ

©モアイおじさん

©Hygrocybe

©ゴールデンコメット

©KAT.

©りゃっこ

©オガサワラノミガイ

©toriyan

集まれ!トンボ調査隊

Dragonfly Quest 調査レポート 2025 夏編

ニチアスグループは豊かな水環境が不可欠なトンボをシンボルとしています。全国で減少しつつあるトンボや生息地の保全に向けて、日本全国を対象に、みんなでトンボや生息環境の情報を集める「トンボ調査隊」を開始しました！

©こってん

©ゴールデンコメット

©ヒゲツノザメ

©ジャコウひねり揚ゲハ

©takeyumi

©ジャコウひねり揚ゲハ

©てくてくあるく

ニチアス

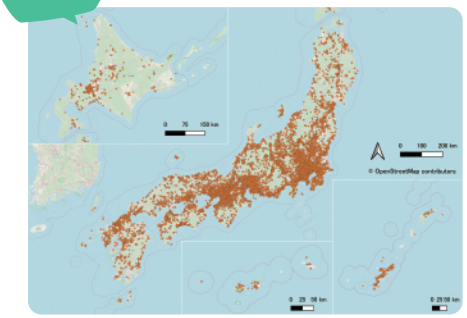
©アカシュモクザメ

調査目的

原材料の調達や製造段階を通じて、ニチアスの事業にとっても必要な資源である「水」。トンボは、そんな日本の豊かな水環境を特徴づけるいきものです。しかし、開発による湿地の減少、土地利用の変化、外来種の侵入、除草剤・殺虫剤の利用、気候変動といったさまざまな要因によって、多くの種が姿を消しつつあります。トンボたちを守るのに必要な「どこに、どんな種が生息しているか」といった基礎的な情報を集めるため、この調査隊を開始しました！

Dragonfly

みんなで見つけた！
日本全国トンボマップ



Aquatic plants

トンボの暮らしを支える！
日本全国水辺の植物マップ

©そらまろ

調査結果

参加した人
9,909人

ミッションコンプリート数
162人

調査期間
2025年6月1日～8月31日

発見した数

トンボ目 **32,338件**　水草 **4,312件**

発見した種類

トンボ目 **176種**　水草 **150種**

発見者数

メインミッション

- トンボや水辺の植物を7種投稿せよ！・・・・**704人**

エクストラミッション

- 湖沼や湿地で見られるトンボを３種投稿せよ！ ・・・・**1,064人**
- 渓流や河川で見られるトンボを３種投稿せよ！ ・・・・**1,826人**
- 水辺の植物を３種投稿せよ！ ・・・・・・・・**299人**

※上記のプロット及び数値は、調査期間内にアプリ「Biome（バイオーム）」に日本全国から寄せられたトンボ目と水草（一般的に在来種と考えられている湿生・水生植物を選定）の報告を集計したものです。
※分類群等の登録はアプリユーザー自身によるもののため、一部不確かなものが含まれている可能性がございます。

©KAT.

Dragonflies Ranking!

見つけたトンボランキング

1

©そらまろ

シオカラトンボ

全国の止水域に生息し最も普通にみられます。成熟したオスは、その名の通り塩が吹いたような白い粉に覆われます。

※止水域…湖沼、湿地、水田のように水の流れの小さい場所

2

©ゴスマニノフ

オオシオカラトンボ

樹林に囲まれた日陰のある水辺に生息します。シオカラトンボに似ていますが、眼が黒みがかっているのが特徴です。

3

©モアイおじさん

ハグロトンボ

近くに樹林のある河川や水路に生息します。オスは光沢のある体で翅は黒く、メスの体と翅は光沢のない褐色をしています。

4

©ヤクルトおじさん

ウスバキトンボ

世界で最も広く分布するトンボで、日本の各地に飛来しますが、ほとんどの地域では越冬できません。

5

©tomboike

アオモンイトトンボ

沿岸付近のやや水深のある止水域に多く生息します。東北地方などでは生息域の北上がみられます。

希少種ピックアップ

● 絶滅危惧IA類　● 絶滅危惧IB類　● 絶滅危惧II類

© ゴールデンコメット

ナニワトンボ ●

瀬戸内海周辺にだけ分布する日本固有種です。ため池の管理放棄により数を減らしています。

©bekko

ベッコウトンボ ●

周囲に草原があり、水生植物が豊富な池に生息します。水域の開発などで数を減らしています。

©Arctica

オオモノサシトンボ ●

モノサシトンボより、やや大きく黒みが強いのが特徴です。水域の開発や農薬により数を減らしています。

©Mou09

ナゴヤサナエ ●

日本固有種で、河畔林のある中・下流域に生息しています。河川改修や水質汚濁によって、数を減らしています。

©ユウヤンマー

ハネビロエゾトンボ ●

体に金属光沢があります。全国に生息しますが、分布は局所的で、水域の開発や外来種によって数を減らしています。

© ヤマガエル

メガネサナエ ●

一部の湖とそこに繋がる河川で生息が知られています。水質汚濁や河川環境の変化によって数を減らしています。

@るっこる

©ゴールデンコメット

※各種のカテゴリーについては、環境省第4次レッドリスト(2020)を参照しています。

Aquatic plants Ranking!

見つけた水草ランキング

トンボの暮らしと水草たち

トンボたちが暮らす上で、特につながりが深いのが、水辺の植物たち。

ヤゴは水草につかまって生活し、成長すると、水上の葉や茎へ登り、羽化してトンボへと姿を変えます。成虫になっても多くの種が、水辺から遠く離れることはあまりなく、エサ場や休息場所として植物を利用しながら暮らします。産卵の時期になると、植物の表面や組織内に卵を産み付けます。水中で産卵するものも、繁殖や産卵のなわばりや止まり木として、こうした植物を利用します。

そんな在来の水草たちも、半数近くの種が絶滅の危機に瀕していると言われています。

©すみれこ

©☆らびす☆

1

© ひでお#

ハス

地下茎はレンコンとして知られ、ハス田や湖沼に生育します。20cmほどのピンク色の花は観賞用としても楽しまれます。

2

©ひまひびちょうさたい

ガマ

湖沼から側溝まで、幅広い水辺に生育します。ソーセージのような穂は、熟すと弾けて穂綿を飛び散らせるのが特徴です。

3

© じろう系

ヒメガマ

「ガマ」よりも葉や穂が細長く、水深の浅い水辺に生育します。雄花と雌花が上下に離れて付くのが特徴です。

希少種ピックアップ

● 絶滅危惧IA類　● 絶滅危惧II類　● 準絶滅危惧

©ABS@アピエス

オニバス ●

直径1mを超える大きな葉は、両面が鋭いトゲで覆われています。水域の開発や水質汚濁により数を減らしています。

© ヒゲツノザメ

ヒメミクリ ●

湖沼や湿原に生育し、「クリの毬」のような実が特徴です。湿地開発やため池の管理放棄により数を減らしています。

©S.H.S.K

デンジソウ ●

水田などに生育するシダの仲間で、四つ葉のクローバーに似た葉が特徴です。農薬や農地整備により数を減らしています。

©melodians

ツツイトモ ●

沿岸部の湖沼に生育し、「糸」のような見た目が特徴です。水質汚濁や沿岸開発により数を減らしています。

©えづ

ミズオオバコ ●

水田や水路に生育し、名前の通り「オオバコ」に似た葉を水中に広げます。農薬や農地整備により数を減らしています。

© すじかば

シモツケコウホネ ●

流れのある水路に生育し、赤い柱頭盤をもつ黄色い花が特徴です。世界で栃木県だけにしか分布が知られていません。

※各種のカテゴリーについては、環境省第5次レッドリスト(2025)を参照しています。

© Oncorhynchus